



歯科診療科紹介

周術期口腔機能管理と医科歯科連携について

副病院長（歯科）五十嵐 薫

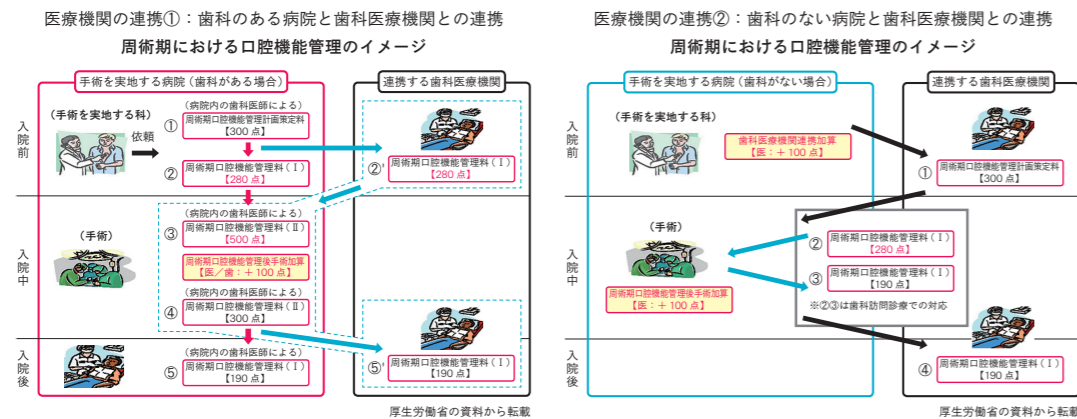
周術期口腔機能管理は手術後の合併症の軽減や在院日数の短縮をもたらす口腔の歯科管理であり、医科歯科連携によるチーム医療の推進のために2012年の歯科診療報酬改定において管理料等が新設されました。対象となるのは、悪性腫瘍の手術、化学療法、放射線療法、心臓血管外科手術、臓器移植などです。具体的には、術後肺炎の予防、処置に伴って発生する口腔粘膜炎の管理、歯周炎などの感染源による急性炎症の予防、開口障害・摂食障害の予防、挿管・抜管時の歯の脱落防止などを目的として、口腔清掃指導、専門的口腔内清掃、感染源の処置、抜歯、歯の固定やマウスピースの作製、開口訓練の導入などを行います。中医協のデータによれば、周術期口腔機能管理を実施した全

ての診療科において在院日数が短縮され、その効果は10～50%であることが示されています。当院歯科部門では数年来、主に院内医科部門の診療科と周術期口腔機能管理を実施してまいりました。しかしながら、その紹介件数は全対象患者数の20～30%に留まっており、医科における認識不足や院内紹介手続き業務に加えて、我々の受け入れ窓口も十分に認知されていなかったことが原因として考えられました。

この度、2014年の診療報酬改定において、周術期口腔機能管理が必要な患者さまにおける医科医療機関から歯科医療機関への情報提供が評価され、医科点数表に歯科医療機関連携加算（100点）が認められました。さらに、歯科医師による周術期口腔機能管

Clinical Department

理の実施後1月以内に手術を実施した場合に周術期口腔機能管理後手術加算（100点）も追加されました。本改定によって、院内外の医科歯科連携による口腔支援の動きが加速することが予想されます。そこで歯科部門では、予防歯科内に周術期口腔支援外来を設置し、周術期口腔機能管理を実施する歯科医師、歯科衛生士を増員して受け入れ体制を強化するとともに、新たにクラークを配置して院内外の医療機関（医科および歯科）との連携体制を整備することになりました。周術期口腔支援外来の詳細につきましては次号の本欄においてお知らせいたしますが、該当する患者さまがいらっしゃいましたら是非当院の周術期口腔支援外来にご紹介ください。



お問い合わせ
周術期口腔支援外来
（予防歯科内）
担当：細川 亮一
小関 健由
TEL：022-717-8930

with

東北大学病院
地域医療連携センター通信
[With/ウィズ]

vol.29

2014年4月25日発行



イベント情報

平成25年度東北大学病院地域医療連携協議会を開催しました

2月4日、勝山館にて第9回東北大学地域医療連携協議会を開催し、今年度は院内外から約240名の方にご参加いただきました。

この協議会は、当地域医療連携センターが主催となり、地域の医療機関の方々への感謝の意を伝えるとともに、今後のますますの連携を図ることを目

的として開催しています。

昨年続き、患者紹介・転院協力にご尽力いただいた病院と診療所および退院後在宅で健康管理いただいた往診医に対して感謝状を贈呈し、受贈者の皆さまからご挨拶をいただきました。

その後、呼吸器内科、糖尿病代謝科、麻酔科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、加齢

核医学科の診療科長が、各診療科の方針や目標、検査や治療の内容などを紹介しました。

総会終了後の懇談会では、星陵アンサンブルの学生の演奏を聴きながら、日頃からお世話になっている医療機関の方々和やかに懇談の場をもつことができました。

Event



お知らせ

第10回 東北大学病院市民公開講座

もっと知ってほしい 皮膚ケアと排泄ケア 参加費無料

日時：2014年6月28日（土）13時～
場所：仙台国際センター 仙台市青葉区青葉山
記念講演：女優 石井苗子
体験イベント：ストーマケア演習など

事前のお申し込みが必要です。申し込み用紙にご記入の上、FAXでご返送ください。なお、はがきまたはE-mailでもお申し込み可能です。詳しくはお電話でお問い合わせください。

応募先 東北大学病院 地域医療連携室「市民公開講座」担当
はがき：〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1
FAX：022-717-7132 Eメール：ijik002-thk@umin.ac.jp
お問い合わせ：022-717-7131（市民公開講座担当）

※申し込み用紙は当院内で配布しております。当院ホームページからもダウンロード可能です。※はがきまたはEメールでお申し込みの際は、郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加人数を明記の上、上記までお送りください。

Information

編集後記

少しお休みをいただきましたが、新緑うるわしい5月にリニューアル発行することができました。ボリュームは少なくなりましたが、当院の診療科等の紹介や催し物等の案内など、内容を充実させていきたいと考えております。今後ともご愛読をよろしく願っています。（地域医療連携係 高橋 京）

編集／発行

東北大学病院 地域医療連携センター
TEL：022-717-7131 FAX：022-717-7132
Eメール：ijik002-thk@umin.ac.jp
ご意見・ご要望は、地域医療連携センターまでお問い合わせください。



医科診療科紹介 耳鼻咽喉・頭頸部外科

耳鼻咽喉・頭頸部外科は、2013年11月1日付で前任の小林 俊光教授から香取 幸夫が引き継ぎ、診療を継続しています。従来から日本でトップレベルの治療を行っている耳疾患や頭頸部がん領域の治療に、新教授の専門領域である音声障害や嚥下障害の手術治療が加わり、より幅広い領域で専門診療を進めています。

耳鼻咽喉・頭頸部外科では、首・頭のうち脳と眼球を除く広い範囲の病気を担当しています。中耳炎、副鼻腔炎、

扁桃炎にはじまり、頭頸部がんの治療、音声・嚥下の疾患、唾液腺の疾患、顔面・首の外傷、を担当します。顔面神経麻痺や突発性難聴といった機能障害に対する入院治療も行っています。大学病院救命救急部と連携し、耳鼻咽喉科救急疾患の応需も積極的に進めています。

当科では手術以外の治療で出来るだけ患者さんの症状を良くしようと努めておりますが、手術の必要な病状に対しては積極的に先進的な手術を行っています。

聴力改善手術（鼓室形成術や人工内

耳手術）、内視鏡下鼻副鼻腔手術、聴神経腫瘍や一部の鼻腔腫瘍などの頭蓋底腫瘍摘出手術、頭頸部癌（口腔、鼻副鼻腔、咽頭、喉頭、唾液腺、頸部）の根治手術、声帯麻痺の患者さんの音声改善のための喉頭枠組み手術、重度嚥下障害の患者さんに対する嚥下機能改善手術や誤嚥防止手術、において各々経験に富む専門医が執刀を担当し、良好な結果を得ています。

ここで、当科で重点をおいている3つの領域の治療についてご紹介します。

3つの領域の治療

【人工聴覚器の治療】 日本では1990年代の後半から、回復困難な高度難聴に対して人工内耳治療が進められています。現在まで普及が進み保険適応となったことから、幼少時（先天性難聴）や成人（後天性難聴）の患者さんに対して当院では積極的に治療を進めています。東北大学医工学研究科の教授を併任する川瀬 哲明先生を中心とする難聴グループの医師、看護師、聴覚リハビリを担当する言語聴覚士のチーム医療により良好な治療効果をあげています。

【頭頸部進行がんの治療】 近年、口腔がん（舌がん）・咽頭がんの有病率が増加し、がん全体の5～10%を頭頸部がんが占めるようになってきました。当科では形成外科・口腔外科・放射線治療科・腫瘍内科と連携し、口腔・咽頭の進行がんに対して、皮弁再建を含む根治手術や放射線化学療法を行っています。また、頭蓋底に進展する悪性腫瘍に対しても脳神経外科・形成外科と共同して先進的な手術を進めています。

【音声・嚥下障害の手術】 音声・嚥下障害に対し、保存的な治療を優先する一方、手術治療により患者さんの機能改善を目指しています。声帯麻痺による強い嚙声や、回復困難な嚥下障害に対する手術を担当する東北地方では数少ない施設です。リハビリテーション科、言語聴覚士と協力して、患者さんのよりよい音声機能・嚥下機能の回復に尽力しています。



人工内耳



聴力改善手術



内視鏡下鼻副鼻腔手術



声帯麻痺に対する喉頭枠組み手術

当科では耳鼻咽喉・頭頸部外科の全ての分野で全国でも最先端の医療・研究を、熱意を持って行っていると自負しています。私どもが力になれるような患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当科までご紹介をお願い申し上げます。

Department



認定看護師紹介

緩和ケア認定看護師

藤本 亘史（ふじもと こうじ）

東北大学病院での勤務は2年目ですが、緩和ケア認定看護師としての活動は12年目になります。現在は、看護部教育担当としてナース支援室に所属し、がん教育を中心に担当しています。また、週1～2回、緩和ケアチームの活動に参加し、現場のがん看護の実際を知り、がん看護教育プログラムに反映させるように努めています。

東北大学病院のがん看護教育の強化としてAOBAナース・プログラムの[がん看護]コースを紹介します。このプログラムは、教育力、実践力を体系的に習得するプログラムで、がん拠点病院である当院で働く看護師の、“患者の苦痛と症状を緩和できる力”を身につけることが目的です。当院で働くがん関連の看護師が、今まで以上に患者・家族が満足できるがん看護を提供できるように取り組んでいます。

緩和ケアは時代と共に変化しています。2014年1月に、がん拠点病院の新指針が打ち出され、制度が大きく変わっていきます。この指針には、「がんと診断された時から緩和ケアを提供すること」が義務付けされています。具体的には、がん患者の身体的苦痛や精神・心理的苦痛、社会的苦痛等のスクリーニングを行うことや緩和ケアチームと連携し、スクリーニングされたがん疼痛をはじめとするがん患者の苦痛を迅速かつ適切に緩和する体制を整備する、などが明記されています。また、緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア病棟等を有機的に統合する緩和ケアセンターを整備することとなっています。がん診療に関わる病院の組織体制の変更に合わせて連携の強化や新たな人材の育成など、私自身

にできることを真摯に取り組んでいきたいと考えています。



中央診療施設等紹介 「循環器センター」

当院の循環器診療の特徴は、循環器内科と心臓血管外科の連携のもと、虚血性心臓病・心不全・不整脈・肺高血圧症・心筋症・大動脈疾患など、幅広い循環器疾患に対して最新の高度医療を提供していることです。特に、心臓と肺の両方の臓器移植が認定されている全国の3医療機関の1つであり、広く東日本各地から多くの重症心不全や肺高血圧症の患者さんが紹介されてきます。また、人口の高齢化に伴い、慢性腎臓病や閉塞性動脈硬化症などを合併し、より高度の集学的治療を必要とする心臓病患者さんの割合が年々増加しています。こうした背景を受け、さらに高いレベルの循環器医療を提供するため、2012年7月に「東北大学病院循環器センター」が開設されました。

初代センター長に下川 宏明循環器内科科長、副センター長に齋木 佳克心臓血管外科科長が就任し、良質な循

環器チーム医療を提供しています。特に、心臓移植や植込み型補助人工心臓装着に関しては、適応決定から実施までの治療方針の一本化と迅速化が図られています。また、近日中に両診療科が一体となってハートチームとして共同で治療を行う経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）も開始されます。「循環器センター」では重症度に応じて集中治療部・CCU・一般病床と3段階の病床を有効活用し、急性期治療から社会復帰に必要なリハビリテーションまで、切れ目ない診療が可能となっています。また、「循環器センター」は、低出力体外衝撃波を用いた非侵襲性血管新生治療や肺高血圧症に対する分子標的治療の開発、吸収性新素材を用いた新しい心膜癒着防止材の開発、極細径光ファイバ圧センサの開発など、基礎研究の成果を臨床に応用するいわゆるトランスレーショナルリサーチ（橋渡

し研究）の実践の場となっており、我が国の医療に大きく貢献する人材育成の役割も担っています。



People

Facility